

3 教育活動			総 括				
基 本 方 針			キャリア形成、職業実践の視点に立った教育活動に力点を置き、企業、事業所、関係機関との連携による実習を展開している。各科が行う卒業研究等の成果発表はコロナ禍に伴う縮小や変更はあるものの、制約をカバーする取組の工夫やテーマの設定が行われ、従来と変わらない活動が継続された。実習や資格、検定も計画通りに進まない中、これまでの経験を生かし、一定の実績を残した。また、実習科目だけでなく就職活動や実社会で有効となるコミュニケーション力や人間力養成を期しているが、指導体制の再構築が必要となっている。そのほか、授業のDX化等専門力を高めるカリキュラム開発が求められている。				
<p>(1) 学園の教育理念にもとづいて、各科、学年における目標を明確に示し、指導体制を確立する。</p> <p>(2) より質の高い教育を展開するために外部関係者とも協議を重ね、社会ニーズ、学生ニーズに応えるカリキュラムを編成する。</p> <p>(3) 各学科に関連する分野との緊密な連携により、実践的な職業教育を実施する。</p> <p>(4) 資格取得支援、就職支援、教育活動全般をとおして、様々なキャリア形成の支援を行う。</p> <p>(5) 学生一人一人の自己理解、キャリアプランニング能力を高める教育活動を展開する。</p> <p>(6) 教員の専門性、指導力を高めるための研修計画、支援体制を拡充していく。</p>							
評価の観点	評価の項目	取組状況	自己評価	実施状況	外部評価	提言・今後の改善	
目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育理念、育成人材像等に沿った教育課程の編成等が策定されているか。 2 学科ごと修業年限に対応した教育到達レベルが明確になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 育成人材像に沿った修業年限分のカリキュラムが編成されている 2 教育到達レベルは理念等に適合しているか。 3 資格取得を目指す学科では、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 全ての科が文科省の「職業実践専門課程」の認定を受けている。 2 カリキュラム編成は社会状況、学生実態をもとに改善を重ねているほか、教育課程編成委員会や実習指導者、関連機関から出された提言を踏まえ見直しを行っている。 3 コロナ禍の影響を受け、実習先の確保に苦慮しているが、歯科衛生士科、医薬サポート科ともに診療所や店舗等の理解、協力を得て実施できている。医薬サポート科医薬品スペシャリストコースはデュアルエデュケーションとして、ドラッグストアで月80時間のインターシップを実施しており、終了後は自己評価と企業評価のすり合わせを行っている。歯科衛生士科も臨地実習を行い、医療職への自覚を深めた。ICTシステムサイコはインターシップがコロナ禍により、受け入れが整わない状況が続いている。 	A	O	A	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育課程編成委員会等における関係者の提言がカリキュラムにも反映されるよう、外部講師を含めて実際に授業を担当する教員が、学生理解を基盤として論議する機会が持てるよう努めていく。 2 文部科学省「職業実践専門課程」全科認定の継続を目指す。 3 各科それぞれ関係機関との協力により、実習先の確保や指導者との連携に努め、育成人材像を共有していく。また専門士としての職業的使命感が醸成されるよう、客観的自己理解にもとづいたキャリアプランニングを支援する。
教育方法・評価	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育目標に沿ったカリキュラムが学科ごとに体系的に編成されているか。 2 関連分野の企業、施設等との連携により、カリキュラムの検証、見直しが行われているか。 3 キャリア教育、職業実践教育の視点に立った教育内容、教育方法、教材等の工夫がなされているか。 4 学習指導の充実、授業の改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を配しているか。 2 カリキュラムについて外部関係者の意見聴取を行い、作成に反映しているか。 3 インターンシップ、臨床実習等、職業教育の実施が体系的に位置づけられているか。 4 企業・医療福祉施設等での事業所実習、職場実習を実施しているか。 5 職業実践教育の視点で、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各科ではテーマ設定や発表形態に工夫を凝らし、卒業研究発表会等の実施により、学修成果を示した。 2 専門分野以外にもEQアセスメント、ビジネス実務など、社会人としての基本を修得する授業を展開し、人間力育成にも力を入れている。 3 学生による授業評価、アンケートを実施している。結果は教員にフィードバックされるほか、GPA評価を交え、授業改善に向けた検証を行っている。 				<ul style="list-style-type: none"> 1 教職員の専門性向上に向け、高度資格の取得や研修参加を積極的に支援するとともに、教員間、講師陣の情報共有の仕組みを工夫する。 2 新任者の職務遂行力の定着と向上に向け、研修体制、指導体系の改善と確立を図る。 3 教員の自己啓発のための支援体制について、時間的な確保に配慮が必要ではないか。 4 オンライン授業のノウハウを学習ツールや広報ツールとしての活用を図る。また可能なコース、授業はレベルや習熟度に応じた学習システムについて研究を重ねる。 5 現場で生きる専門力を高めるには自信を持って臨める分野、言語、スキルを持っていた方がよい。とりわけ変化スピードが速い業界では、素早い対応、応用が可能な基礎力が身につくカリキュラムを充実させる必要がある。

評価の観点		評価の項目	取組状況	自己評	実施度	外部評	提言・今後の改善
教育方法・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に貢献できる職業人としての人格形成に資する教育が展開されているか。 	6 授業評価を実施する体制を整えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生には学習の手引き、シラバス等で授業内容ほか成績評価、単位認定の基準を明示するとともに、各科成績・卒業判定会議を実施し、客観性、統一性を確保している。 ・資格取得は長期休業を利用した特別講習など全員合格に向けた指導体制を整えている。 ・教員は経験年数に応じ計画に沿って研修参加し、教務会及び復命書等において必要な報告、情報共有を行っている。 ・教職員には定期の考課面談とう評価を実施している。 ・年度末に新年度の役務分担を発表し、職務組織と分担を明示している。 ・授業の質向上や指導の統一性に向け、年度当初に外部講師会議を開催している。 	A	○	A	
		7 授業評価結果がフィードバックされ、活用されているか。					
		8 自己理解を深め、コミュニケーション能力の向上に向けたカリキュラムが設定されているか。					
単位認定・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数、単位数を明確にし、成績評価、単位認定の基準を適切に運用しているか。 ・実習等の成果を把握しているか。 	1 各科目のシラバス、授業計画を作成し、学生に提示しているか。					
		2 学生一人一人の成果、到達度を図るための発表機会等を確保しているか。	B	○	A		
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする資格がカリキュラムに位置づけられているか。 ・資格取得の指導体制は整備されているか。 	1 取得目標とする資格の内容、意義について明確にしているか。					
		2 資格取得に関連する授業科目、講座開設などを明確にしているか。	B	○	A		
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成目標の実現に適う資格、要件を備えた教員を確保しているか。 	1 関連分野における専門性や業界との連携性に優れた教員を確保しているか。					

評価の観点		評価の項目	取組状況	自己 証	実 施 度	外部 証	提言・今後の改善
教員・ 教員組織	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上に向けた取組が行われているか。 ・教員の組織体制を整備しているか。 	2 専門性や指導力を把握し、向上させるための職場内研修を充実させているか。		B	○	A	
		3 専門性や指導力向上に向けた外部研修派遣、自己啓発に対する時間的・財政的な支援を行っているか。					
		4 教職員の組織体制、業務分担を明確に定めているか。					
		5 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。					